

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

『 社会人として自立し、自身の夢を実現させ、地域や社会に貢献できる人材を育てる学校 』

## 1 「社会人としての素養」を育む

「時間を守る」「挨拶ができる」といった基本的な生活習慣を確立し、時には厳しく寄り添いながら生徒への指導・支援を行い、生徒の「豊かな心」、「自尊感情」、「規範意識」を育てる。将来、地域の指導者として活躍できる人材の育成に力を注ぐ。

## 2 「確かな学力」を育む

基礎学力の定着を目標に、生徒自らが主体的に学び、考えをまとめ、発表できる力を育成する。また自学自習の習慣を身につける環境、学習支援体制を整え、教職員の「授業改善」に対する組織的な取り組みを推進する。

## 3 「未来を拓く力」を育む

生徒一人ひとりが自らの将来像を描き、希望や適性等に応じた進路を実現できる力を育む。また様々な課題を抱え支援を必要とする生徒に対しての関わりを深め、保護者・地域・中学校と連携をしながら、すべての生徒が安心して学校生活を送れる教育環境づくりに努める。

## 2 中期的目標

## 1 進路を切り拓く力の育成

## (1) 「わかる授業、魅力ある授業」をめざした授業改善

- ア 生徒の実態に応じた「わかる授業」を展開し、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。
- イ 教職員相互の授業見学・研究授業、および授業アンケート結果の活用等とおして「授業改善」を図る。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断の授業理解度を3年後には80%とする。(R01:72%、R02:68%、R03:76%)

## (2) 基礎学力の定着、学習習慣の確立

- ア 少人数授業を積極的に取り入れ、基礎学力を効果的に身に付けさせる。
- イ 図書館を学校での学びのセンターとして位置づけ、調べ学習や自学自習の場としての利活用の推進を図る。
- ※ 図書館利用者数を3年後には年間4000人とする。(R01:5365人、R02:4020人、R03:2275人)

## (3) キャリア教育の充実と希望進路の実現

- ア 「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育を計画的に実施し、進路指導を充実させる。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断の進路指導に対する肯定度を3年後には85%とする。(R01:82%、R02:80%、R03:83%)

## 2 生徒支援体制の整備と豊かな人間性の涵養

## (1) 一人ひとりへの支援体制の強化

- ア 生徒が安心して相談できる環境を整備し、課題を抱える生徒の状況を学年、人権教育委員会、生徒支援会議で的確に把握できる体制を作る。
- イ 生徒一人ひとりに必要な支援を行うために保護者、中学校、子ども家庭センター（子ども相談所）および各市町村の福祉関係機関などとの連携を図る。

## (2) 生徒の「規範意識」、「自己有用感」、「人権意識」の醸成

- ア 生活習慣の確立を図り、豊かな人間性を涵養するための生徒指導を行う。
- イ 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や部活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、社会性を育む。
- ウ 「総合的な探究の時間」を中心に、3年間を見通した人権教育・国際理解教育を行い、人権の大切さや多様性を理解する人間性を育てる。

## 3 安全・安心で魅力ある学校づくり

## (1) 「必要とされる学校、入りたい学校」をめざした効果的な広報活動

- ア 中学校訪問、学校見学会や学校説明会等のさらなる充実を図り、HPをはじめICTを効果的に活用する。
- ※ 入学生の学校説明会参加率を3年後には50%にする。(R01:未調査、R02:未調査、R03:47%)
- ※ 保護者向け学校教育自己診断におけるHPおよび配信メールの利用度を3年後には90%にする。(R01:65%、R02:77%、R03:78%)

## (2) 生徒が安心して安全に生活できる環境づくり

- ア PTAや同窓会等と連携して、生徒が安心して過ごせる安全な教育環境整備をすすめる。
- ※ 学校教育自己診断における施設・設備に対する満足度を3年後には生徒・保護者とも70%にする。  
(R01:生徒60%、保護者60%、R02:生徒57%、保護者59%、R03:生徒55%、保護者57%)

## (3) 地域に貢献できる人材の育成

- ア 地域の行事に積極的に参画し、社会への帰属意識を向上させる。
- イ 体育専門コースの充実を図り、将来の地域の指導者となりうる人材を育成する。

## 4 校務の効率化と働き方改革の推進

- (1) 教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理や健康管理を徹底させる。
- (2) 校内ネットワークを含めたICTの活用による、業務の効率化および情報の共有化を推進する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年10月実施]	学校運営協議会からの意見
<p>令和3年度と比較して、生徒は全22項目中21項目で肯定的回答の割合が上昇している。今年度は行事の制限や中止がほとんどなく、安心して学校生活を送ることができたことが数値に表れていると考えられる。一方で、保護者においては全22項目中16項目で肯定的回答の割合が下降しており、生徒との認識に大きな差が見られた。生徒が肯定的に捉えている授業や学校の取り組みについて、家庭でも保護者と共有できるよう丁寧に情報発信することで、安心して過ごせる学校であることをしっかりと伝えていきたい。</p>	<p>◇第1回(令和4年6月21日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業見学をさせていただいたが、少人数授業で、先生方が創意工夫をしてわかりやすい授業をされていた。欠席している生徒に対してはリモートで授業をしていると聞き、我々の時代とは全く違う方法で効率よく授業をしているという印象を受けた。</li> <li>・授業を見せていただいて、もう少ししんどい生徒がいるのかと思っていたが、そんなことはなかった。どちらかというと、支援の必要な生徒が増えているのかもしれない。授業のやり方や参加している生徒の姿を見ると、少人数を活かしていると思う。</li> <li>・授業を見学させていただいて、居眠りをしている生徒がほほいなくに感心した。中学校でもより対話のある授業形態をめざしているが、このコロナ禍の中で停滞していた。今年度は制限もかなり取れて、ペア学習や班学習を再開している。そういう方向の取り組みが高校でも必要である。</li> </ul>



<p>1 進路を切り拓く力の育成</p>	<p>(1) 「わかる授業、魅力ある授業」をめざした授業改善 ア 生徒の実態に応じた「わかる授業」を展開し、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。 イ 教職員相互の授業見学・研究授業、および授業アンケート結果の活用等とおして「授業改善」を図る。</p> <p>(2) 基礎学力の定着、学習習慣の確立 ア 少人数授業を積極的に取り入れ、基礎学力を効果的に身に付けさせる。 イ 図書館を学校での学びのセンターとして位置づけ、調べ学習や自学自習の場としての利活用の推進を図る。</p> <p>(3) キャリア教育の充実と希望進路の実現 ア 「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育を計画的に実施し、進路指導を充実させる。</p>	<p>ア・グループワークやプレゼンテーションを取り入れた授業研究を進め、「主体的で対話的な深い学び」への取組みを推進する。 ・ICTを積極的に授業で活用し「わかる授業」への取組みを推進する。 イ・公開授業・研究授業の実施や授業アンケート結果の分析を行い、授業改善・授業力の向上を図る。  ・経験年数の少ない教員を中心に他校種の授業見学を実施し、教員力の向上をめざす。</p> <p>ア・少人数展開授業を全ての学年で取り入れ、基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けて自己表現力の伸長を図る。 1年：国語、数学、英語 2年：数学 3年：国語、英語</p> <p>イ・学習に利用できる書籍の拡充(地域の図書館との連携も含む)および調べ学習や探究活動等、図書館を活用した授業を推進する。</p> <p>ア・3年間を見通した計画に基づき進路指導の充実を図り、早い段階から具体的な進路目標を持たせる取組みを推進する。</p>	<p>ア・学校教育自己診断(生徒)「勉強することは大切」[83%]、「授業はわかりやすい」[73%]を昨年以上にする。 ・教員の授業でのICT活用度90%以上を維持する。[94%] イ・学校教育自己診断(生徒)「教え方の工夫」の肯定度を昨年度以上にする。[78%] 授業アンケートによる評価の平均値3.4以上を維持する。[3.53] ・他校種(小中学校、支援学校、大学など)との教員交流を2回以上実施する。[0回]</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)「少人数によるきめ細やかな指導」を昨年度以上にする。[70%] 少人数展開授業アンケートでの満足度について昨年度水準を維持する。 [1年：数学 89%・英語 92%] [3年：国語 94%・英語 90%]</p> <p>イ・公立図書館からの団体貸出数を100冊以上を維持する。[130冊] 図書館利用数並びに貸出数を2000人以上に[2275人(うち授業819人)・332冊]</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)「適切な進路指導」の肯定度を昨年度以上にする。[83%] 学校斡旋就職1次内定率85%以上を維持する。[88%]</p>	<p>ア「勉強することは大切」88.5% (○) 「授業はわかりやすい」82.9% (◎) 教員のICT活用度 86.2% (△) イ「教え方の工夫」89.0% (◎) 授業でのICT活用は定着した中で、生徒への学習効果があらわれるためのさらなる工夫が必要となる。  授業アンケート評価平均 3.53 (○) 他校種との交流 3回 (○) 観点別学習状況評価への取組みや、生徒への丁寧な説明の効果が生徒評価の全体的な底上げにつながった。支援学校との交流により教員、生徒ともに人間関係構築に対する視野が広がった。  ア「少人数によるきめ細やかな指導」73.0% (○) 少人数満足度 1年国語 97% 1年数学 90% 1年英語 95% 2年数学 78% 3年国語 96% 3年英語 90% 今年度よりすべての学年で少人数授業を展開したが、概ね高評価であった。(○) イ 公立図書館団体貸出数 50冊 (△) 図書館利用数 1377人(授業 363人) 貸出数 244冊 (△) 生徒数の減少により図書館の利用が低調に推移したが、今後一層の利活用に取り組みたい。  ア「適切な進路指導」90% (◎) 学校斡旋就職1次内定率91% (○)  丁寧な進路指導が生徒に評価され、指導の効果が良い結果として現れた。</p>
<p>2 生徒支援体制の整備と豊かな人間性の涵養</p>	<p>(1) 一人ひとりへの支援体制の強化 ア さまざまな支援が必要な生徒に対し情報共有しながら、組織として支援できる体制を整える。 イ 生徒一人ひとりが抱える諸問題に必要な支援を行うために積極的に外部機関との連携を図る。</p> <p>(2) 生徒の「規範意識」「自己有用感」「人権意識」の醸成 ア 生活習慣の確立を図り、豊かな人間性を涵養するための生徒指導を行う。 イ 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や部活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。 ウ 「総合的な探究の時間」を中心に、3年間を見通した人権教育・国際理解教育を行い、人権の大切さや多様性を理解する人間性を育てる。</p>	<p>ア・学習を含め課題を抱える生徒の状況を学年、人権教育委員会、生徒支援会議で的確に把握し、指導できる体制を維持する。 イ・SCを活用した教育相談窓口を機能させ、生徒一人ひとりへの細やかな対応を行うことにより、不登校等を減少させる。 保護者、中学校、子ども家庭センター(子ども相談所)および各市町村の福祉関係機関などとの連携を積極的に図る。</p> <p>ア・登下校指導、遅刻指導、校内巡回など生活習慣確立をめざす取組みを全教職員で行い、生徒が安全で安心して学べる環境を維持・発展させる。</p> <p>イ・体育大会、文化祭等生徒が主体的に企画・運営・参画する行事を充実させる。 ・新入生の部活動体験の実施や、部活動の成果を発表する機会を増やすことなどにより、部活動を顕彰する。</p> <p>ウ・いじめアンケートの実施やSNSをめぐる問題の学習などを通して、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を育む教育を実践する。 ・「総合的な探究の時間」の年間計画の中で国際理解学習を計画的に取入れる。</p>	<p>ア・学校教育自己診断(生徒・保護者)「親身に相談に応じてくれる」肯定度[74%・66%]、(保護者)「相談に適切に応じてくれる」肯定度[70%]を昨年度以上にする。 イ・SCの活用回数について昨年度水準を維持する。[10回]</p> <p>ア・生徒一人あたりの平均遅刻回数1.2回以内を維持する。[1.4回] ・学校教育自己診断(生徒)「生活指導」肯定度80%以上を維持する。[87%]</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「学校行事」満足度を70%以上にする。[64%] ・新入生の部活動加入率を40%以上にする。[32%] 学校教育自己診断(生徒)「部活動がさかん」肯定度を昨年度以上にする。[61%]</p> <p>ウ・学校教育自己診断(生徒)「人権教育」に関する肯定度を昨年度以上にする。[81%] ・外部人材を招聘し、国際理解学習を効果的に行う。</p>	<p>ア「親身に相談に応じてくれる」生徒 79.2% 保護者 63.1% (△) 「相談に適切に応じてくれる」65.3% (△) イ SC活用回数 13回 (○) SSW活用回数14回 (◎)  組織的な教育相談体制は整いつつあるが課題を抱える生徒が増加するなかでさらに組織の強化をめざしたい。 今年度よりスクールソーシャルワーカー(SSW)の活用をはじめたが、生徒支援のための家庭や外部機関との連携に非常に貢献していただいた。  ア 平均遅刻回数 1.9回 (△) 「生活指導」肯定度 92.7% (◎) 本校の生徒指導に関する取組は生徒に理解・支持されている。 遅刻回数の若干の増加が見られるので、生活習慣の確立に一層努めたい。  イ「学校行事」満足度 73.6% (○) 新入生部活動加入率 53.1% (◎) 「部活動がさかん」肯定度 53.1% (△)  生徒数は減少したが、新入生の多くが部活動に参加し、少ない部員ではあるが活発に活動する姿が見られた。  ウ「人権教育」肯定度 91.0% (◎) 海外語学研修は3年連続して中止となったが、青年海外協力隊(JICA)の職員を招聘し探究授業に参加していただいた。英語スピーチコンテストを実施するなど、生徒の国際的視野を広げることができた。(○)</p>



## 府立美原高等学校

<p>3 安全・安心で魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 「必要とされる学校、入りたい学校」をめざした効果的な広報活動 ア 中学校への広報活動を範囲を拡げ実施するとともに、近隣中学校との連携を強め、美原をめざす生徒を増加させる。</p> <p>(2) 生徒が安全に安心して生活できる環境づくり ア 保護者への積極的な情報提供に取り組む。</p> <p>イ 地域と連携して様々な安全教育に取り組む。</p> <p>ウ PTAや同窓会等と連携して、生徒が安全で安心して過ごせる教育環境整備をすすめる。</p> <p>(3) 地域に貢献できる人材の育成 ア 地域の行事に積極的に参画し、社会への帰属意識を向上させる。</p> <p>イ 体育専門コースの充実を図り、将来の地域の指導者となりうる人材を育成する。</p>	<p>ア・中学校訪問、学校説明会、体験授業等のさらなる充実を図る。</p> <p>・HPを随時更新することで、本校の取り組み等を発信し、広報に努める。</p> <p>ア・メール配信等により、(非常変災時の対応など)保護者へ迅速かつ適切な情報提供を行う。</p> <p>イ・地域の外部機関等と連携しながら、生徒の安全や安心を高める取組みをすすめる。(熱中症対策や防犯・防災、交通安全、心肺蘇生、薬物乱用防止等)</p> <p>ウ・PTAや同窓会等と連携した教育環境整備の推進および校内緑化活動の実施</p> <p>ア・生徒の地域のイベント等への自主的な活動を推奨し、生徒の達成感や自己有用感を醸成する。</p> <p>イ・体育専門科目の特色ある授業の展開や防災教育の観点を取り入れた校内での野外体験実習等を実施する。</p>	<p>ア・学校や地域での説明会の参加者数を300人以上にする。[194人]</p> <p>・HPを50回以上更新する。[56回]</p> <p>ア・学校教育自己診断(保護者)における「HP・メール」利用度を80%以上にする。[78%] 保護者向けメール配信を20回以上行う。[26回]</p> <p>イ・自転車の交通事故件数40件以下にする。[44件]</p> <p>ウ・学校教育自己診断「施設・設備」の満足度を60%以上にする。 [生徒 55%、保護者 57%]</p> <p>ア・地域のイベント等への生徒参加人数を50人以上にする。[28人]</p> <p>イ・体育専門コース選択生の満足度90%以上を維持する。 [2年 86%、3年 91%]</p>	<p>ア 説明会参加者数 205 人 (△) HPの更新回数 46 回 (△) 再編整備が決定するなかで、本校への進学を希望する生徒・保護者の声に励まされる。入学するすべての生徒を大切に育て、生きるための力をしっかりと身に付けさせたい。</p> <p>ア「HP・メール」利用度 69.0 % (△) メール配信回数 51 回 (◎) メール配信に加え、今年度より学校クラウドサービスを用いた保護者向けの配信を開始した。今後も様々な媒体を用いて保護者との連携を深めたい。</p> <p>イ 自転車事故件数 18 件 (◎) 自転車の交通マナーを中心とした交通安全教育の指導が浸透してきた。今後は道路交通法の改正に伴ったヘルメット着用について徹底する必要がある。</p> <p>ウ・「施設・設備」の満足度 生徒 62.9 % (○) 保護者 52.4 % (△) 安全対策、防災対策、感染症対策など様々な観点から施設・設備の充実をさらに図っていく必要がある。</p> <p>ア・イベント参加人数 40 人 (△) 堺市総合防災センター出初め式、老人福祉施設での演奏など地域の様々なイベントが徐々に再開され、生徒が積極的に参加した。</p> <p>イ・体育専門コース満足度 2年 100 % 3年 92 % (◎)</p>
<p>4 校務の効率化と働き方改革の推進</p>	<p>(1) 教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理や健康管理を徹底させる。</p> <p>(2) 校内ネットワークを含めたICTの活用による、業務の効率化および情報の共有化を推進する。</p>	<p>・最終退勤時間の目標時刻の見直し等の取組みにより、時間外労働の縮減を図る。</p> <p>・ペーパーレス会議の実施、一斉メールの配信など、業務の効率化のためのネットワークの活用をさらに推進する。</p> <p>・ネットワークを活用した分掌・委員会・学年での情報の共有化および教科内での教材の蓄積、共有化を図る。</p>	<p>・職員の時間外労働月平均時間を30時間以下にする。[33h18m]</p> <p>・職員会議をすべてペーパーレスで行う。 校長からの連絡や、資料提供にメール配信を活用する。[42回]</p> <p>・職員朝礼等の連絡事項は全校トップページより美原高校の連絡掲示板を活用する。[172回]</p>	<p>時間外労働月平均時間 26.6 h (◎) 時間外労働の縮減、業務内容の見直しなど効率化に向けた意識改革が浸透した。</p> <p>管理職(校長・教頭)からのメール配信 144 回 (◎) 連絡掲示板の活用 147 回 (○) 会議のペーパーレス化、Web掲示板の活用、学校クラウドサービスを用いた情報提供など、省資源化や効率的な情報の共有化がより一層進んだ。</p>